

令和4年度(2022年度) 第1回コミュニティ交通部会 議事録

I 日時等

1. 日 時：令和4年(2022年)8月3日(水)午後4時～午後5時
2. 場 所：桜の馬場 城彩苑 2階 多目的交流施設

II 主な内容

1. 開会
2. 部会長挨拶

3. 議事

AI デマンドタクシーの実証実験について

(事務局)

- ・資料1、参考資料1を用いて説明

(部会長)

- ・ただいま議事について事務局より説明があったが、これに関して何かご意見・ご質問はないか。

(委員)

- ・利用者が相乗りすることでより効率的な運行になると思うが、現在、拡大傾向にある新型コロナウイルス感染症の対策はどうされるのか。
- ・また、広報はどのようなことを考えているのか。

(事務局)

- ・まず1点目の新型コロナウイルス感染症の対策については、現時点では、実証実験期間においてのみ実施するような特別な感染対策というものを考えているわけではない。日常生活や公共交通機関の利用時等において、すでに実施している基本的な感染対策を実証実験においても継続して実施するかたちになると思う。
- ・また、これは決定事項ではないが実証実験においては、利用者の事前登録を行うことを検討している。そうした登録を促す際に、手指消毒や感染対策の徹底など、日頃からの注意喚起を改めて行うことはできるのではないかと思う。
- ・次に2点目の周知広報については、郊外部での実証実験の運行エリアとして検討している天明地区について、既にまちづくりセンターを通じて地域の方々にも話をさせていただいている。こうした取り組みを今後も継続していくことになるかと思う。
- ・また市街地部については、利用対象者を該当地域に居住する小中学生に限定しているため、対象者に対して集中的、効果的に周知広報ができるように方法を検討したいと考えている。

(委員)

- ・実証実験における周知広報についてお答えいただいたが、これは本当に大事なことだと思

っている。

- ・特に昨年度の健軍地区における実証実験は、利用者が右肩上がりのなか、実験期間が終了したということであった。昨年度の実験においても自治会や地域に広報されていたと思うが、この秋に行われる実験では天明地区では高齢者、長嶺・錦ヶ丘地区では小中学生とターゲットが絞られてくる。そのため、広報についてもこれまでの取組以上に工夫が必要かと思う。例えば高齢者であれば、ささえりあなど地域の方々の協力が必要であるし、長嶺・錦ヶ丘ではPTAや学習塾の皆さんにも協力をお願いする必要があると考える。
- ・もう一点、健軍で実験をした際にはどのようなネーミングで周知されたのかは確認していないが、高齢者の中には「AI デマンドタクシー」という言葉を聞いた時点で拒否反応を示す方もいるのではないかと心配している。
- ・会議の説明ではAI デマンドタクシーが良いと思うが、広報の際には「みんなで安かお願いタクシー」とか「安心子育てお願いタクシー」など耳に入りやすい言葉を用いた名称にするなどの工夫も必要だと思う。

(事務局)

- ・委員のおっしゃるとおりで、我々も周知広報は非常に大事だと認識している。地域に足を運んで、地域の方々と一緒にこのAI デマンドタクシーを作り上げていくなかで、あわせて周知広報を行っていききたいと思う。
- ・ネーミングについても、利用される方々に伝わりやすいものを考えていきたい。

(委員)

- ・昨年度の健軍地区での実証実験は非常に好評であったということであったが、現在も運行等はされているのか教えて頂きたい。

(事務局)

- ・現在は運行していない。昨年10月から約1か月間の実証実験の期間のみ運行したもの。

(委員)

- ・せっかくいい結果が出てきていたなか実証実験が終了したかたちになっているので、実験の結果を受けて、今後どう進めていくのかをお聞かせいただきたい。

(事務局)

- ・昨年度の産学官連携による健軍地区の実証実験に関しては、後半かなり利用者が増えたがやはり相乗り率がなかなか上がらないという状況があった。
- ・料金も通常のタクシーの半額程度であったので、やはり通常のタクシーの代わりに、1人で使われるケースが多かったと思っている。
- ・今年度の実証実験に関しては、地域の実情に即したものにしたいと考えている。そのため、早い段階からまちづくりセンターと連携して地域に入りヒアリングを行うことで、目的地や利用時間帯などより具体的な高齢者のニーズをつかむように取り組んでいる。
- ・こうした取り組みが、地域の方が利用しやすい乗降場の設定につながり、相乗り率の向上にもなると考えている。
- ・また、今回は実証実験の期間を少なくとも3ヶ月確保しているため、今後何らかの形で定

着させることができるように、先を見据えて実証実験を行っていく。

(委員)

- ・健軍地区では結構な利用があったようなので、恐らくもう運行していないのかという問合せもあったのではないかと思います。
- ・昨年度の実証実験が終了してから、もう半年以上たっているのに、もう少し早く進めてもらったほうが、住民の方は喜ぶのではないかと思います。

(委員)

- ・健軍の AI デマンドタクシーについて、どのようにして意見を集めたものなのかを伺いたい。

(事務局)

- ・ご意見の聴取の方法については、利用された方に対して事後的にアンケートを行うというかたちで行った。

(委員)

- ・車の中でアンケートを行ったということか。

(事務局)

- ・利用している最中ではなく、実証実験の期間が終わった後に、ご利用いただいた方に個別に封書を送らせていただいてご意見を頂戴した。

(委員)

- ・そういう手段ももちろん大事だと思うが、例えば子供の利用者であれば、降車時に満足度に応じて3色のシールを貼ってもらうなど、利用時の生のデータを残せるような手段もあわせて検討して頂きたい。
- ・今は LINE など様々な方法があるので、いわゆる鮮度の高い感想を集めていただいた上で、後日また感想を書いていただくなどすると、生きた情報が得られるのではないかと思います。
- ・今回特に利用対象エリアが広がるので、ぜひその辺りも工夫をしていただきたいと思います。

(委員)

- ・今回から小中学生向けの実験もされるということで、働いている保護者の方も多いので助かるのではないかと思います。
- ・ただ、基本的に学校には現金を持ち込まないことになっている。そのため、子供が家に一旦帰ってから利用する場合は問題ないが、学校から直接習い事などに移動する際などの対応を検討する必要があると考えるがいかがか。

(事務局)

- ・利用方法の想定としては児童育成クラブなどもあるので、学校や児童育成クラブが終わった後にそのまま AI デマンドタクシーを利用するようなケースもあるかと考えている。
- ・本格導入の際には、クレジットカードなど現金以外での支払いや後払いなど利用時以外の支払い方法の検討も必要になってくるかと思う。

- ・今後、業務の委託先との協議を行うことになると思うが、今回の実証実験の段階では、基本的には降車する際に車内で料金を支払うことが前提になるかと思う。
- ・ただ、その他の支払い方法についても検討を行いたい。

(部会長)

- ・なかなか難しい問題かと思うが、学校関係者ともよく協議していただければと思う。

(委員)

- ・基本的な質問だが、郊外部における AI デマンドタクシーのメインターゲットは高齢者であるが、高齢者は何歳以上といった決まりはあるか。

(事務局)

- ・今回の実証実験において何歳以上を高齢者とするというような定義付けはしていない。
- ・また、メインターゲットはいわゆる高齢者だが、地域の方であれば誰でも利用していただける。
- ・今回実験の対象地区として選定した天明地区は非常に高齢化率が高く、実際にヒアリングをする中で、公共交通による移動ができないということで自家用車を使っていたり、家族などに送迎をしてもらっているという状況にあると認識している。そのような方の移動手段を確保するということが重要だと考えているため、メインターゲットという言い方をしている。

(委員)

- ・私も西区に住んでいる両親が 83 歳と 80 歳と高齢で、免許を返納していることもあり、今回の会議に参加する話をしたときに、AI デマンドタクシーのようなものがあったら良いねという会話があった。
- ・多くの方にとって大変助かるものであると感じるが、今回の実証実験において運行経費の補填には税金が使われることになる。郊外部と市街地部でエリアもターゲットも異なるなか、今後これらの事業を熊本市としてどのように展開していくお考えなのかお聞かせ頂きたい。

(事務局)

- ・郊外部と市街地部とでターゲットもエリアも違うということで、確かに最終的に熊本市が目指すコミュニティ交通の姿というものが見えにくいかとは思ふ。
- ・今回対象エリアとして選定した天明地区については、公共交通空白地域対応のコミュニティ交通である乗合タクシーが 2 路線運行している。
- ・空白地域にお住まいの方の移動手段を確保することは、行政の責任として進める必要があると考えているが、既存の制度自体の利用が低迷していることもあり、これらの制度をより利用しやすい手段に変えていくということがひとつの観点である。
- ・また、市街地部については、熊本市としても子育て支援となるものを政策的に行っており、交通の観点から子育て支援が出来ないかというところから今回の実験を行うことを検討している。
- ・そのため、市内一円に今回お示ししたようなコミュニティ交通を走らせるということでは

なく、空白地域の移動手段の確保や、子育て支援など目的に応じたコミュニティ交通をそれぞれのエリアにおいて運行するというイメージでの実証実験の実施ということで考えている。

(部会長)

- ・ある意味将来のビジョンを描くための実証実験という意味合いもあると思うので、今回の実証実験の結果を十分分析して今後につなげていくものかと思う。

(委員)

- ・公共交通空白地域について触れられたが、天明地区における乗合タクシーの取組については、おそらく「てんめい乗合タクシー」と「中緑乗合タクシー」のことを言われたと思う。
- ・そういった意味ではさまざまな取組を、熊本市としてもやられているが、今回 AI デマンドタクシーを導入することにより期待される効果について、公共交通との連携強化による相乗効果もあるかと思う。
- ・天明地区のエリアを広げれば飽田地区も入ってくると思うが、既存のバス路線とコミュニティ交通としての乗合タクシーが2路線あり、それに今回 AI デマンドタクシーを導入するというので、それぞれが相乗効果をあげることができるような取組を進めていただきたいと思っているが、現時点で何かお考えがあればお示しいただきたい。
- ・また、市街地部での実証実験においては、安全対策が重要になってくると思う。
- ・今回の実証実験は10月から12月、1月初めまで3ヵ月間行うということで、日が暮れるのが早く、特にこの地域は渋滞や交通量が多い地域である。
- ・乗降場所をきちんと考えるという説明もあり、市としても安全対策はしっかり行われると思うが、今後事業者を選定されるに当たって、条件の中に安全対策を大きく位置づけていただきたいと考えている。

(事務局)

- ・先ほども申し上げたが、天明地区には既存のコミュニティ交通が2路線運行している。ただ、利用状況については非常に低迷している。
- ・一つの要因としては公共交通空白地域のコミュニティ交通ということで、いわゆるセーフティーネットという観点で最寄りのバス停に接続するという運行形態をとっている。そのため、利用者にとっては利便性が悪い部分もあるかと思う。
- ・当然既存のバス路線との競合については配慮するが、今後の交通政策を考える上で、複数の交通モードを乗り継いで円滑に目的地まで行くというような MaaS の考え方は非常に重要であると思っている。
- ・その観点からすると、やはりコミュニティ交通も、ある程度利便性の高いバス停に接続してそこから乗換えて目的地に行けるような制度を目指していく必要があるかと思う。
- ・今回の AI デマンドタクシーの実証実験の結果を踏まえて、既存のコミュニティ交通の見直しも考えていきたい。
- ・また、市街地部での実証実験について、安全性の確保は最重要観点であると考えている。
- ・安全に乗り降りできるように車を一時的に停車させるスペースを確保するなど、目的地と

なるような学習塾などと個別に協議を行っていききたい。

(委員)

- ・天明地区の方は今おっしゃったように既存の乗合タクシーの今後の在り方も含めて検討してもらいたい。
- ・長嶺・錦ヶ丘地区の方は、親としては安全性が最も心配なところであると思う。
- ・そこをしっかりとクリアしないとこの取組を行う事業者や市の責任が問われるのでよろしくお願ひしたい。

(部会長)

- ・これから委託業者については、プロポーザルで公募されるということで安全対策も十分評価されると思うが、幼稚園児・保育園児など、小学生より下の年齢層の利用要請があった場合どのような対応を想定されているか。

(事務局)

- ・今回の実証実験に関しては、利用対象者として小中学生を想定している。
- ・今後、市民の方の困り事を解決する観点で様々な分野と交通の連携は考えられると思うが、今回に関しては子供が一人で乗り降りができることや停留所から家まで移動できることが前提となるため、未就学児への対応は難しいと感じる。
- ・また、先ほどもご指摘があったが、料金の支払については未就学児が現金を持ち歩いて受け渡しを行うことは困難であると考えるので、今回は小中学生をターゲットとして子育て世代の負担軽減を図る観点でどれほどのニーズがあるかを探りたい。
- ・今後の交通政策を検討するなかで、他分野との連携はあると思われる。未就学児が乗車する場合は、対応する者を1名車内に配置するなどの対策も必要になるかと思う。
- ・少なくとも今回の実証実験においては、小中学生を対象とする予定。

(委員)

- ・やはり運行することが最善のPRになると思う。
- ・市街地部での取組であれば、車体に大きく「子供タクシー」「100円」などの表示をして運行している目的がはっきりと分かるように、また多くの人にPR出来るようにしてほしい。

(事務局)

- ・車両に関しては、利用者が迎えに来たことが視認できるようなラッピング等にし、自分が乗るジャンボタクシーであることが分かるような表示にしたいと考えている。

(部会長)

- ・他に意見はないか。
- ・事務局は、委員からの意見を参考に、次回の部会に向けた準備を進めてもらいたい。
- ・それでは本日の議事を終了する。